

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜社会人＞（冬期）出題の意図

試験 科目	専門科目 (教育学系)	講座		研究 分野	
----------	----------------	----	--	----------	--

(2 枚中の 1 枚目)

(教育工学)

問題 I

問題 I は、昨今、一般に普及している「メタバース」と呼ばれるようなオンライン上で複数の参加者が同時に参加できる仮想空間について、教育における活用の可能性と課題や限界について論じるものである。その論述を通して、情報通信技術を教授・学習活動にどのように活用するかに関する知識や理解を示すことを求めている。さらにはその背景となる、人間や社会、教育問題に関する教養的知識、その知識に基づき思考する態度、批判的思考力および自身の意見を論理的に記述する能力を問う。

問題 II

問題 II は、教育工学研究に必要となる知識として、教育改革に関する教養的知識および、教育の方法、教育課程、教育評価、教育心理学、研究方法論、統計学に関する学術的知識の理解度を確認するものである。

(教育心理学)

問題 I

いずれも、教育心理学および発達心理学領域における基本的用語であり、理解度を確認するとともに、説明する際の文章力や表現力等を把握するための問いである。

問題 II

心理学研究法に関する基本的な知識を有しているか、量的研究法、質的研究法のそれぞれのメリットを踏まえて、リサーチクエスチョンを設定し、具体的な調査計画を立てることができるかを確認するとともに、説明する際の文章力や表現力等を把握するための問いである。

(教育制度学)

問題 I

近年の教育制度改革、教育政策をめぐる時事問題をどれほど認識しているか、という基礎知識を問うことを目的として出題した。2025 年に行われた法改正のなかでも、もっとも注目された法案の一つを題材とすることで、受験者の教育制度に関する理解度を評価する。

問題 II

教育制度をめぐる学術上、政策上の争点となっている代表的な 4 つのキーワードを理解できているかを問うことを目的として出題した。それぞれのキーワードに込められた教育事象をめぐる問題の理解度を評価する。

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜社会人＞（冬期）出題の意図

試験 科目	専門科目 (教育学系)	講座		研究 分野	
----------	----------------	----	--	----------	--

(2 枚中の 2 枚目)

(教育文化学)

問題 I

近年、「教育格差」という言葉が一般に使われるほどに広がっている。しかし、その意味内容は様々である。本来、「格差」という言葉は、集団間に不公正な差異がある場合に使用されるべきであるが、単なる個人間の差を指し示す意味で用いられることもある。教育格差という概念をきちんと理解していることは、教育社会学的な調査研究に取り組むうえで、必須である。

また、研究に取り組むうえでは、そうした一般的に広がっている概念や言説を、自らの研究関心にひきつけて考察できることも重要である。以上の意図で出題した。

問題 II

教育文化学分野で研究を行うにあたって必要な教育学・教育社会学の重要概念・重要事項を理解できているかを把握するための問題である。